

内モンゴルにとっての日中戦争

1. 辛亥革命前後における内モンゴルの地域秩序

中華世界と内陸アジア世界の重層的地域

(1) 華夷秩序とその崩壊（茂木）

(2) モンゴルの独立と内モンゴル

外在的要因（キャフタ条約）と内在的要因（モンゴル王公の関係）

ボグド・ハーン政権の対内モンゴル政策（橘）

内モンゴル地域概念の政治性：変動的な領域観、「満蒙」地域（中見）

2. 国民政府の辺疆政策の特徴

(1) 清朝から現代中国までの辺疆／民族政策の連続と断絶

朝貢・冊封体制、五族共和論、辺疆政策、民族区域自治政策

(2) 近代的“フロンティア”の策定 → 内モンゴルへ影響

戦争による国家形成、国民政府の開発主義、（抗日/救国）ナショナリズムの形成

3. 戦時における中国の領域策定と内モンゴル地域秩序の再編 - “包摂”の諸相 -

日中戦争期の華北と内モンゴル・・・ 対日協力政権の成立

内モンゴル東部地域：

1931年 満洲事変 1932年 満洲国樹立 満洲国（日本帝国）の一部（広川）

内モンゴル西部地域：関東軍の内モンゴル工作、華北分離工作

(1) 政治制度面における“包摂”

内モンゴル・・・盟旗制（モンゴル人）＝省制（漢人）行政院に直属し並列関係

南京国民政府の内政と外政の関係

内政：中央と地方関係の重層性（南京⇔閻 閻・傅⇔徳王、南京⇔徳王）

中央：蒋介石中央政府

⇔地方：山西（閻錫山）・綏遠（傅作義）漢人地方軍事実力者

⇔徳王をはじめとするモンゴル人革新勢力（百霊廟自治運動）の対立

外政：日本軍の華北進出（華北分離工作・内モンゴル工作）

1935年 蒋介石と閻錫山 - 内モンゴルや華北における抗戦体制について議論

10月 華北（内モンゴル含む）の軍事的責任は閻錫山に一任

→ 傅作義が綏遠省で日本軍の内モンゴル工作に対応

⇒ 1936年1月、蒋介石は百霊廟蒙政会を解体

（綏遠省、チャハル省それぞれ蒙政会を設立）⇒ 省内盟旗自治

日中戦争期内モンゴル西部地域は分裂状態へ

日本：1937年、蒙古連合自治政府設立（徳王）⇒蒙疆政権（対日協力政権）

⇒日本帝国の一部分

中国：1936年、綏境蒙政会の設立（漢人地方軍事実力者、親民国派モンゴル人）

⇒中国の抗戦体制へ組込まれる →日中戦争開始後は陝西省榆林へ移動

(2) 社会・経済的側面における“包摂”・・・西北開発としての内モンゴル西部地域

国民政府の边疆/西北開発政策・・・国防と経済開発

満洲事変以降

西北開発としての内モンゴル西部地域

・新アジア学会、開発西北学会 - 政策提言と地域間ネットワーク（南京と綏遠）

・後套地域開発（地方政府、知識人、民間団体による共同開発）

戦時：中央レベルでの边疆開発計画の試み

・边疆工作人員の募集と派遣

边疆工作人員紹介所・・・1943年-44年に蒋介石が行政院に設置

边疆工作を担う人材の育成と派遣機関

(3) 文化的側面における“包摂”・・・

漢人社会における内モンゴル認識とイメージの形成

知識人の関与

学知による内モンゴル認識 - 様々な民族論の創出

・日中における近代的領土認識の形成と対抗

矢野仁一：「満蒙は支那に非ず」

傅斯年：満蒙（中国東北部と内モンゴル）は中国の領域であることを主張

顧頡剛：「中華民族は一つ」（村田）

・様々な边疆研究 — 開発西北学会との連続性

メディア（映画・演劇）

中国の領土としての「内モンゴル」イメージを醸成

上海から重慶へ西遷してきた映画・演劇人たちによるプロパガンダ映画の撮影

『塞上風雲』1942年放映

国民政府軍事委員会政治部第3庁の下で組織

内モンゴルが中国に帰属する正統性を表現

(4) モンゴル人の漢化？・・・榮祥（親民国派モンゴル人）

トムト旗総官 綏境蒙政会委員 モンゴル語話せず

戦時：「蒙漢同源説」を主張 → 戦後：高度自治運動に参加

4. 戦後の内モンゴル

(1) 日本軍撤退後の権力の空白地帯として

省内自治（綏遠省、漢人知識人）－ 高度自治（モンゴル人：栄祥）

(2) 国共内戦－民族自治区の設立（中国共産党：ウランフ）

人民共和国期－共産党体制内自治（分離・独立は認めず）＝ 民国期と同様

おわりに.

内モンゴルにおける日中戦争の影響と遺産

【参考文献】

茂木敏夫「華夷秩序とアジア主義」 pp3-39、長谷川雄一『アジア主義思想と現代』慶應義塾大学出版会、2014年。

橘誠『ボグド・ハーン政権の研究 モンゴル建国史序説 1911-1921』風間書房、2011年。

中見立夫『『満蒙問題』の歴史的構図』東京大学出版会、2013年。

広川佐保『蒙地奉上』汲古書院、2005年。

同「蒙疆政権の対モンゴル政策 - 満洲国との比較を通じて」内田知行・柴田善雅『日本の蒙疆占領 1937 - 1945』研文出版、2007年。

村田雄二郎「中華ナショナリズムの表象－顧頡剛における〈民族〉と〈文化〉」、『江戸の思想』第8号、1998年。